



このたびはご参加いただき、
ありがとうございます！



2021年度 全国集会

～コロナ禍の社会に届けたい私たちの声～

2021年12月5日（日）13:00～14:40

<現地では終了後～16:30意見交換会>

公益財団法人あすのば／子ども・若者委員会



ご参加にあたって

- ・全国集会は13時～開始予定です。終了は14:40頃を予定しています。
- ・参加受付のため、Zoomにご参加の際、お名前を表記ください。
- ・マイクはミュートでご参加ください。よろしくお願いします。
- ・記録や公開のために録画予定です。ご希望でカメラはOFFにしてください。
- ・時間の関係上、十分な質疑応答の時間をとることができかねます。
ご感想やご質問は随時チャットにコメントを記入し残していただくか、
全国集会の終了後に info@usnova.org までメールでお送りください。
- ・参加者による録画や録音、資料の無断共有、チャットでの誹謗中傷、
参加者などの情報公開は固く禁止いたします。何卒ご了承ください。



全国集会のプログラム

13:00～14:40（予定）＜現地・オンライン＞

①「社会的養護経験者の声と生活アンケート」速報値報告会

開会あいさつ／アンケート速報値報告／経験者、参加者からのコメント

②子ども・若者委員会 声の発信「コロナ禍の社会に届けたい私たちの声」

趣旨説明／「コロナ禍の社会に届けたい私たちの声」／閉会あいさつ

＝＝＝＝＝ここまで 現地とオンラインのハイフレックス形式＝＝＝＝＝

14:50（予定）～16:30 ＜現地のみ＞

③意見交換会「生活の状況や声を聴いて考える、今後の社会の在り方」

再開・開会あいさつ／感想共有、意見交換／全体共有／閉会あいさつ

3



今回の全国集会の主旨

このたびは全国集会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

今回の主旨として、新型コロナウイルス感染拡大による影響が長期化し、全国さまざまな子ども・若者世代の活動も大きな制限や転換が求められ続けてきました。このことは、「子どもがセンター（どまんなか）」を掲げて一緒に活動をすすめる子ども・若者委員会を設置し、学生・若者も理事として参画してきた私たち公益財団法人あすのばも例外ではありません。

昨年度は年末に行っていた子ども・若者委員会や全国集会も中止となり、緊急支援給付金や入学・新生活応援給付金に徹することになりました。今年度はコロナ禍での活動を再開させようと地域ごとやオンラインも活用しながら交流会・意見交換会を実施し、給付金を届けた人へのアンケート調査も通して活動を模索してきました。

4



今回の全国集会の主旨

今まで“当たり前”だった「集まる」という場づくりが困難となっている中、かかえる想いや率直な声を発信しづらい・聴き取りづらい状態は慢性化しつつあります。子ども・若者にとっては必要で今しかできないことも「不要不急」に追いやられ、見過ごされている不安な気持ちや不満も少なくありません。

そこで、今回の全国集会は、感染対策に工夫・配慮しながら、①「社会的養護経験者の声と生活アンケート」結果の速報値を共有し、②子ども・若者委員会から率直な声を聴く機会を設け、③今後の社会の在り方を一緒に考える時間を過ごすことができたらと思っています。

現地とオンラインのハイフレックス開催と不慣れで、短いお時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

5



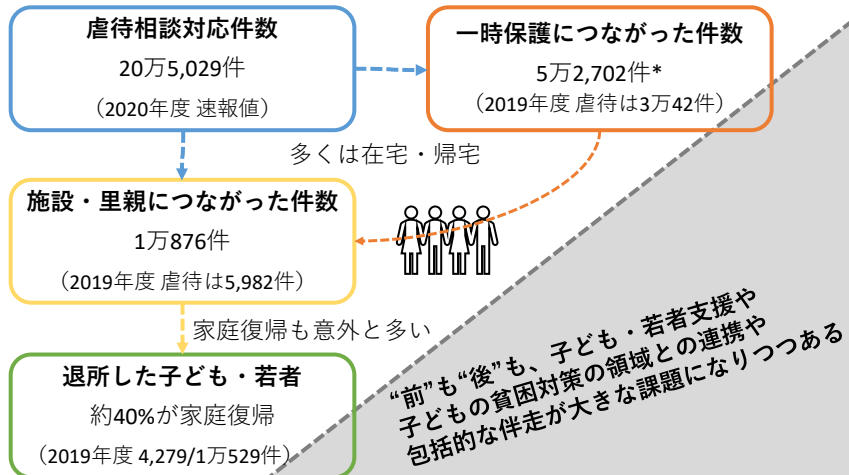
アンケート結果速報値 報告（本人票）



6



アンケート結果速報値 報告（背景）



7



アンケート結果速報値 報告（概要）

(1) 対象者について

このアンケートは、2015～2020 年度「あすのば入学・新生活応援給付金」および 2020 年度「あすのば入学・新生活応援給付金（臨時給付）」を届けた、児童養護施設や里親など社会的養護を経験した子ども・若者本人（今年度 16 歳～24 歳）と家庭復帰した人の保護者（今年度子どもが小学生～18 歳の世帯）を対象に実施しました。

(2) 対象者の人数

本人票 1,106 人、保護者票 161 人（世帯） 合計 1,267 人

(3) アンケートの方法

- ・本人 票：インターネット上フォームの回答によるオンラインアンケート
- ・保護者 票：印刷された調査票の回答による郵送アンケート

なお、給付金決定時に施設退所・里親委託解除後の住所を把握した人（本人票 468 人・保護者票 117 人）には直接郵送でアンケート協力依頼文を送付し、あすのばで住所の分からない人（本人票 638 人・保護者票 44 人）には施設・里親に転送の協力を依頼しました。

(4) アンケートの期間

2021 年 9 月 27 日（月）～10 月 29 日（金）※10 月 15 日（金）までの締め切りを延長

8



アンケート結果速報値 報告（概要）

(5) 有効配布数・有効回答数など

このアンケートでは直接郵送と施設・里親転送後に不達戻りのない票数を有効配布数として、その数と有効回答数は以下の通りです。

【表】対象者数・有効配布数など

項 目	対象者数	有効配布数	有効回答数*	回答率（配布）	回答率（対象）
本人票	1,106	762	161	21.1%	14.6%
保護者票	161	124	24	19.4%	14.9%

*本人票で該当しない世代の保護者、保護者票で職員・里親からの回答は無効としました

なお、お届けできなかった本人票 344 人・保護者票 37 人について内訳は、以下の通りです。

「その他・転送不可」には施設・里親から転送可否の回答がなかった数も含まれています。

【表】お届けできなかった人数・理由の内訳（）内は不達における割合

項 目	不達数	不達率	現住所不明・連絡がつかない	その他・転送不可
本人票	344	31.1%	217 (63.1%)	127 (36.9%)
保護者票	37	23.0%	15 (40.5%)	22 (59.5%)

9



アンケート結果速報値 報告（都道府県）

最後に生活していた施設・里親の都道府県でみると、40 都道府県から回答がありました。現在住んでいる都道府県と数値が異なるということは、最後に生活していた施設・里親の都道府県から引っ越し現在は他の都道府県に住んでいることになります。その比較のため、現在住んでいる都道府県と最後に生活していた施設・里親の都道府県が一致するかについて集計しました。その結果、130 人（80.7%）は最後に生活していた施設・里親の都道府県と現在も同じ都道府県に住んでいることが分かりました。

現在の都道府県と施設・里親の都道府県の比較（n=161）		割合
現在も同じ都道府県に住んでいる	130	80.7%
施設・里親とは異なる都道府県に住んでいる	28	17.4%
無回答	3	1.9%
合計	161	100.0%

資料P 6

← 同じ都道府県 → 異なる都道府県 → 無回答



10



アンケート結果速報値 報告（市区町村）

都道府県と同様に現在住んでいる市区町村と最後に生活していた施設・里親の市区町村が一致するかについても集計しました。その結果、76人（47.2%）は最後に生活していた施設・里親の市区町村と現在も同じ市区町村に住んでおり、80人（49.7%）は異なる市区町村に住んでいることが分かりました。先ほどの都道府県の結果から、80人中28人は異なる都道府県、52人は同じ都道府県だけど異なる市区町村に住んでいる結果が分かります。

現在の市区町村と施設・里親の市区町村の比較（n=161）		割合
現在も同じ市区町村に住んでいる	76	47.2%
施設・里親とは異なる市区町村に住んでいる	80	49.7%
無回答	5	3.1%
合計	161	100.0%

→ 同じ市区町村 → 異なる市区町村 → 無回答



11



アンケート結果速報値 報告（給付金）

役に立った最も近い理由（n=138）		割合
返さなくてもいい	46	33.3%
就職する人ももらえる	19	13.8%
社会的養護でももらえる	5	3.6%
入学・新生活の直前直後にもらえる	37	26.8%
使い道が限られていない	14	10.1%
最低限の手続きで申し込める	7	5.1%
その他	4	2.9%
無回答	6	4.3%
合計	138	100.0%

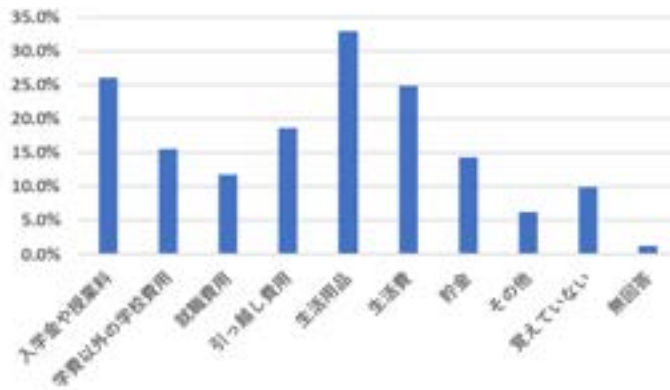
「すごく役に立った」、「役に立った」と回答した人には、最も近い理由を1つ選んでいただきました。最も多かったのは「返さなくてもいい」（33.3%）、次に多かったのは「入学・新生活の直前直後にもらえる」（26.8%）でした。

なお、「子どもの生活と声 1500人アンケート」と比較して、この給付型であることと入学・新生活の直前直後にもらえることが順に高い結果は同じでした。また、顕著に異なる割合は「返さなくてもいい」（今回33.3%・過去47.6%で14.3ポイント前回より低い結果*）、「就職する人ももらえる」（今回13.8%・過去7.6%で6.2ポイント前回より高い結果*）でした。社会的養護の区分では住民税非課税・生活保護世帯の区分と比較して就職する人により給付している前提がありますが、就職する人（進学しない人）への給付金ニーズが高いことを結果から考察することができます。

*前回は「返さなくていい」、「成績不問や就職する人などももらえる」という選択肢でした。 12



アンケート結果速報値 報告（給付金）



給付金の使い道については、過去の『子どもの生活と声 1500 人アンケート』を参考に今回は項目を作成し質問しました。その結果、使い道として一番多かったのは「生活用品(家具や家電など)」(32.9%) で、次に「入学金や授業料」(26.1%)、「生活費」(24.8%) が多い使い道でした。

13



アンケート結果速報値 報告（給付金）

⑤入学・新生活でどのくらいお金が必要だったか

平均値は 32.5 万円、中央値は 20 万円という結果でした。また、準備していたお金が足りていたかについて 92 人 (57.2%) は「十分に足りていた」、「足りていた」、44 人 (27.3%) は「不足していた」、「かなり不足していた」と回答しました。

準備していたお金が足りていたか (n=161)	割合
十分に足りていた	13 8.1%
足りていた	79 49.1%
不足していた	39 24.2%
かなり不足していた	5 3.1%
無回答	25 15.5%
合計	161 100.0%

●十分に足りていた ●足りていた ●不足していた
●かなり不足していた ●無回答



資料P10

14



アンケート結果速報値 報告（給付金）

そして、「不足していた」、「かなり不足していた」と回答した人にはどのくらいお金が不足していたかもうかがい、不足金額の平均値は 26.7 万円、中央値は 15 万円という結果でした。

なお、入学・新生活で必要なお金をまかなうため、あすのば以外の給付金を利用した人は 76 人（47.2%）で、利用していない人は 38 人（23.6%）でした。 ■ はい ■ いいえ ■ 分からない ■ 無回答

あすのば以外の給付金を利用したか (n=161)	割合
はい	76 47.2%
いいえ	38 23.6%
分からない	28 17.4%
無回答	19 11.8%
合計	161 100.0%



15



アンケート結果速報値 報告（仕事・学校）

②現在の仕事や学校

現在の仕事や学校 (n=161)	割合
働いている	89 55.3%
在学している	56 34.8%
働いても在学してもいない	13 8.1%
無回答	3 1.9%
合計	161 100.0%

現在は働いている人が 89 人（55.3%）と退所した直後の進路と比べて 3 人増え、在学している人は 56 人（34.8%）と比較し 5 人減っている結果となりました。卒業や退学、一度就職した後に進学したなど状況は様々ですが、全体の構成としては 5 年で大きな変化はありませんでした。

資料P 12

16



アンケート結果速報値 報告（仕事・学校）

⑤今までに仕事を辞めた経験

今までに仕事を辞めた経験 (n=161)	割合
ある	37 23.0%
ない	114 70.8%
無回答	10 6.2%
合計	161 100.0%

＊ある ＊ない ＊無回答



37人（23.0%）が「ある」と回答しました。また、仕事を辞めた経験が新型コロナウイルス感染拡大の影響によるものかうかがってみたところ、37人中11人（29.7%）が「はい」と回答しました。仕事を辞めるときに誰かに相談したかについては19人（51.4%）が「はい」と回答しました。

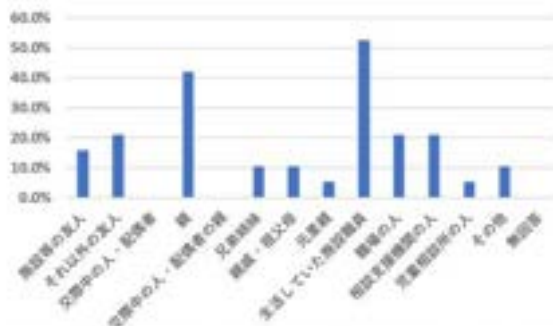
新型コロナの影響 (n=37)	割合
はい	11 29.7%
いいえ	25 67.6%
無回答	1 2.7%
合計	37 100.0%

誰かに相談したか (n=37)	割合
はい	19 51.4%
いいえ	13 35.1%
無回答	5 13.5%
合計	37 100.0%

17



アンケート結果速報値 報告（仕事・学校）



相談した人は「生活していた施設職員」（52.6%）の割合が最も多く、次に「親」（42.1%）の割合が多い結果でした。母数は少ないですが、「相談支援機関の人」（21.1%）の割合をみると割合が特段高い訳ではなく、あすのばのような支援団体が今後どのように連携していくのかについて考えさせられる結果となりました。「その他」には、高校のときの先生があげられました。

18



アンケート結果速報値 報告（施設等の生活）

（４）施設・里親での生活について

①施設・里親のもとで生活した期間と生活のプロセス

平均値では約8.8年（およそ8年10ヵ月）、中央値では8年という結果でした。また、最後に生活していた施設・里親以外の施設・里親で生活した経験（施設から里親などの措置変更または家庭復帰後再措置の経験）をうかがい、68人（42.2%）は「ある」と回答しました。

最後に生活していた施設・里親以外での生活（n=161）		割合
ある	68	42.2%
ない	81	50.3%
無回答	12	7.5%
合計	161	100.0%



「ある」と回答した人には、それぞれの世代区分で生活していた施設・里親の種類をうかがいました。解析の結果、一例として次のページ表のような生活のプロセスが見えてきました。一言に「社会的養護を経験した」と言っても現在に至るまで多様な背景や生活のプロセスを持っていることが分かります。

資料P 15

19



アンケート結果速報値 報告（施設等の生活）

小学生入学前まで	小学校	中学校	中学校卒業以降	年齢
児童	児童	児童	一時保護所と児童養護施設	1
児童	児童	児童養護施設	児童	1
児童	児童	児童	一時保護所と児童養護施設	2
児童	児童	児童	児童養護施設と児童	2
児童	一時保護所	一時保護所	児童養護施設	3
児童	一時保護所	児童養護施設	児童	4
児童	児童	一時保護所と児童自立支援施設	児童養護施設	4
児童	児童	児童自立支援施設	児童養護施設	4
児童	児童	児童養護施設	児童養護施設	4
児童と一時保護所	一時保護所	児童養護施設	児童養護施設と自立支援チーム	4
児童と一時保護所	児童	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	4
児童	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	5
児童	児童	児童自立支援施設	児童	5
児童と一時保護所	児童	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	5
児童と一時保護所	児童	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	5
児童と一時保護所	児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	5
児童	児童	児童養護施設と児童	ファミリースクール	6
児童	児童	児童と児童養護施設	児童養護施設	6
児童	児童	児童養護施設	児童養護施設と児童	6
一時保護所と児童養護施設	一時保護所	児童自立支援施設	自立支援チーム	7
児童	一時保護所	ファミリースクール	ファミリースクール	7
児童	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	7
児童と一時保護所	一時保護所	児童養護施設	児童養護施設	7
一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設と児童自立支援施設	児童	8
児童	一時保護所と児童養護施設	児童養護施設	児童養護施設	8
児童養護施設	児童	児童自立支援施設	児童養護施設	8

20



アンケート結果速報値 報告（施設等の生活）

③施設・里親との連絡頻度

この一年間の施設・里親との連絡頻度 (n=161)	割合
週に1回以上	27 16.8%
月に1回以上	45 28.0%
2~3ヶ月に1回以上	37 23.0%
半年間に1回以上	18 11.2%
1年間に1回程度	12 7.5%
1年間に1回もない	6 3.7%
無回答	16 9.9%
合計	161 100.0%

新型コロナの影響 (n=161)	割合
減った	50 31.1%
変わらない	88 54.7%
増えた	4 2.5%
無回答	19 11.8%
合計	161 100.0%

「月に1回以上」(28.0%) が最も多く、次に「2~3ヶ月に1回以上」(23.0%) が多い結果となりました。また、新型コロナウイルス感染拡大による連絡頻度の影響について88人(54.7%)が「変わらない」と回答した一方、50人(31.1%)が「減った」と回答しました。

21



アンケート結果速報値 報告（現在の生活）

④家族の中にお世話をしている人がいるか

家族の中にお世話をしている人がいるか (n=161)	割合
いる	18 11.2%
いない	128 79.5%
無回答	15 9.3%
合計	161 100.0%

● いる ● いない ● 無回答



ヤングケアラー（本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども）に関連して、厚生労働省・2020年度子ども・子育て支援推進調査研究事業『ヤングケアラーの実態に関する調査研究』（三菱UFJリサーチ&コンサルティング受託・以下、ヤングケアラー調査）と同様の質問もうかがい、家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人は18人(11.2%)でした。対象が異なるため比較はできませんが、参考として中学生・高校生を対象としたヤングケアラー調査は「中学2年生」(5.7%)、「全日制高校2年生」(4.1%)、「定時制高校2年生相当」(8.5%)、「通信制高校生」(11.0%)という結果でした。

22



アンケート結果速報値 報告（現在の生活）

また、「いる」と回答した人には、世話を必要としている人がどなたなのかもうかがい、「兄弟姉妹」(44.4%)の割合が最も高く、次に高かったのは「親」(38.9%)、「その他」(33.3%)、「祖父母」(22.2%)の順でした。「その他」には子どもやおじさんなどがあげられました。なお、ヤングケアラー調査においても「きょうだい」がいずれの学校の種類においても最も高い割合の結果でした。

世話を必要としている人はだれか（複数回答 n=18）	割合
親	7 38.9%
祖父母	4 22.2%
兄弟姉妹	8 44.4%
その他	6 33.3%

お世話をしている頻度（n=18）	割合
ほぼ毎日	6 33.3%
週に3日～5日	3 16.7%
週に1日～2日	1 5.6%
1ヶ月に数回	4 22.2%
その他	3 16.7%
無回答	1 5.6%
合計	18 100.0%

お世話をしている頻度についてもうかがい、「ほぼ毎日」(33.3%)、「週に3日～5日」(16.7%)と週に3日以上お世話をしている人が半数の結果でした。「その他」には、2,3ヶ月に1回などがあげられました。なお、ヤングケアラー調査では「定時制高校2年生相当」(48.4%)の学校の種類を除き「ほぼ毎日」、「週に3日～5日」で同じく半数を超える結果でした。

23



アンケート結果速報値 報告（支援の利用）

（6）支援の利用について

①施設・里親を退所したあと、あすのばの給付金と、国民全員に配布された給付金（10万円）

以外に利用した支援はあるか

● 利用したことがある ● 利用したことがない ● 無回答

施設を退所したあとと利用した支援（n=161）	割合
利用したことがある	48 29.8%
利用したことがない	75 46.6%
無回答	38 23.6%
合計	161 100.0%



「ある」と回答した人は48人（29.8%）、「ない」と回答した人は75人（46.6%）でした。

資料P 24

24



アンケート結果速報値 報告（支援の利用）

<利用した主な支援例>

- ・ 社協の貸付 ・ 在学中の学校独自の支援金制度を利用しました。
- ・ 日本学生支援機構からの支援 ・ 住宅確保給付金
- ・ 「夢の奨学金」 ・ 自立支援援助金
- ・ 京都新聞社「愛の奨学金」 ・ 生活支援や就職活動支援など
- ・ 稲森福祉財団だったと思います。 ・ 社会福祉協議会の家賃補助と資格取得費用
- ・ 大阪育英会 ・ 自動車免許代
- ・ アトム進級基金 ・ コロナ対策給付金
- ・ 赤い羽根共同募金 ・ 日本学生支援機構 給付型奨学金
- ・ アパートの家賃二年分支援 ・ 県の奨学金
- ・ 障害年金の申請 ・ 児童扶養手当
- ・ やまぶき財団 ・ かわもとふんきょう
- ・ 保育士就学支援金 ・ 作文を書き審査の上、給付金を頂いた
- ・ 市の他の奨学金制度です。

25



アンケート結果速報値 報告（支援の利用）

「ない」と回答した人には、その理由もうかがい、29人（38.7%）が「利用しなかったが、利用できなかった」と回答しました。また、その利用できなかった理由についてもうかがい、「利用できる支援自体を知らなかった」（51.7%）が割合で最も高く、次に「利用の仕方が分からなかった」（34.5%）、「条件を満たしていなかった」（27.6%）が高い結果となりました。

支援を利用しなかった理由（n=75）		割合
利用したいと思ったことがない	27	36.0%
利用しなかったが、利用できなかった	29	38.7%
無回答	19	25.3%
合計	75	100.0%

利用できなかった理由（複数回答 n=29）		割合
条件を満たしていなかった	8	27.6%
利用しようとしたが使えなかった	3	10.3%
利用の仕方が分からなかった	10	34.5%
利用できる支援自体を知らなかった	15	51.7%
利用できる支援自体がなかった・見つからなかった	5	17.2%
その他	0	0.0%

26



アンケート結果速報値 報告（支援の利用）

- ・申請主義やヒアリングのハードルは高い。
- ・定期的な連絡
- ・支援が必要な人にこのように手紙、通知などの形で手紙を配達してくれると存在を知れるし、またゆっくり読むことが出来るので落ち着いて内容を知れる
- ・まずみんなあまり知らないと思うので、もっと認知されればいいと思う
- ・施設に支援の話を伝えて、そこから各施設を出た児童に連絡する。
- ・学校や公共施設へパンフレットの配布
- ・審査などは全て取っ払う
- ・分かりやすく説明して欲しい。
- ・コロナの関係でアルバイトに入っていないのでそこに目をつけてくださるとありがたい
- ・メリットがわかる。
- ・各団体が行っている支援の内容・条件・給付内容等が記載されているホームページの作成。また、そのホームページを児童養護施設などへの周知。
- ・返済の事があると、とても不安になるため、苦しい時に頑張って乗り切ろうと思います。返済不要の給付金は、とてもありがたいし、利用しやすくなるとおもいます。
- ・施設の時などから職員と一緒に練習や、実際の手続き等したら良いと思います。
- ・利用できる入居の条件の緩和
- ・使用方法の説明などでサポートしてくれる人がいてほしい。

27



アンケート結果速報値 報告（自由記述）

- ・やはり、引っ越しする費用。
- ・就職した後に、県を跨いでの引っ越し費用や初期費用、家賃でとてもかかった。
- ・18歳の卒業した最初にお金がかかるのはもちろん当然なのですが、正直やはり施設で育ったというのをもって社会と自分の力なのなさを痛感して仕事を辞めてしまう子もいると思います。僕もその1人でした。少しのミスで全てがダメになるような。そして仕事辞めてしまうと新しく仕事を始めようにもなかなか一歩勇気が出せない子もいると思います。そんな子達の支援や制度があるとすごく助かります。やはり生きていくにはお金が必要でそのお金を稼ぐ為の仕事が出来ないとなるとだんだん苦しくなっていくので仕事に復帰出来るまでの少しの期間でも給付金などの支援があると嬉しいなと思います！
- ・学生の方は経済面の支援は必要かと思います。私は社会人なので経済面の支援があると助かりますが、なくても困りはしないです。施設等から離れてひとり暮らしをしている方が多いと思うのでたまに交流できる場があると嬉しいです。
- ・家賃補助。放送局へ勤めるという夢を叶えに関東へ来たが、家賃の出費が大きかった。
- ・現在パートで働いています。会社の方から良くして頂いていますが、環境に馴染めなくて、心療内科で鬱病と診断され治療を続けています。勤務時間を短くして頂き、職業支援など利用し出勤しています。

資料P 28

28



アンケート結果速報値 報告（自由記述）

・私の家系は片親で、退所後、妹が学生で私が社会人になりました。わたしは支援により一人暮らしを経て社会人になることができ、妹も同じく支援により進学することができました。わたしが一人暮らしをした理由は、親が生活保護をうけており、一緒に暮らすと保護を受けられないと聞いていたからです。支援を受けてから何年か経ち、自分でお金を稼いで生活するということに慣れましたが、やはりお金に困ることは無くなることはありませんでした。例えば、車を買うお金がなかったの、歩いて通勤しようと考え、近くに引越したのですが仕事柄夜勤のこともあり、クルマが必要と言われ、まず、困りました。周りは両親が出してくれて少しずつ返すという人が多いのですが私にはそのような事が可能では無いので自分で生活費も車代も娯楽費も同立して生活しなければならなかったです。また、成人式の振袖も同じでした。そのような事がある度に周りとの違いに悩み、妥協することもしばしばありました。また、妹がまだ学生なので、成人式などの費用は私が代わりに負担し妹はバイトで稼が私に少しずつ返済しているような形です。また、妹は持病もあり、バイト代で入院や、治療代などを支払っています。保証はあるものの、将来の野金のことも考えると不安だだけになるし、お金で悩むことに心も痛みます。中には保証の効かないもの、されるかもしれないのにしらないこともあると思います。なので経済力の無い片親の子供に生活上で必要な費用(住宅手当や、車の費用、伝統行事の費用など)の支援がもう少しあって欲しいです。

29



アンケート結果速報値 報告（自由記述）

- ・高卒での就職はお給料が少なく、家賃などを賄えない。
- ・大学に通い続けることにもお金がかかるし、大学に通っている間に成人式があったり、卒業式があったりするのでお金がかかるなと思、どれだけ働いてもすぐになくなってしまふことがしんどいと思います。時間もバイトに使ってばかりでしんどいと感じます。
- ・学校を卒業してから、いろいろな資格を取りたいと感じても、なかなかその費用までためられない事がもどかしいです。
- ・経済的に苦しいと感じる。コロナ禍で収入が減った。
- ・もっとおかねほしい
- ・大学4年生の時からコロナウイルスが流行し始め、オンラインで就職面接が可能になりました。しかし、最終面接は交通費が必要であったり、アルバイトでは雇用が切られたり就職活動をするにあたって収入がないのに大きな支出が立て続けにあるので生活が大変でした。
- ・就職してからも貯蓄がないまま引越したり経済的・精神的にも不安定になりそうでした。
- ・大学を卒業する前に何か経済的な支援があるととても助かります。
- ・交通費が高いから何とかして欲しい。

30



アンケート結果速報値 報告（本人票）

**届けてくれた
声と生活を聴いてくださり、
ありがとうございました。**

なお、給付金の選考は、進路や退所後の住まいなど総合的に必要性の高い人から採用しています。

結果は有効回答数の本人票161人、保護者票24人の合計185人に基づき「社会的養護経験者185人の声と生活アンケート」として後日あらためて報告書にまとめる予定です。

31



アンケート結果速報値 報告（本人票）

経験者、参加者からのコメント



32



コロナ禍の社会に届けたい私たちの声

趣旨説明

このプログラムではコロナ禍でお互いに交流する機会が減少している今、あすのばに関わったことがある子ども・若者などの同世代だからこそ話せる生の声を聴く機会を設け、私たちの現在の生活に対する不安や不満を届けたいと思っています。

33



コロナ禍の社会に届けたい私たちの声

声の発表（資料は当日共有します）



34